

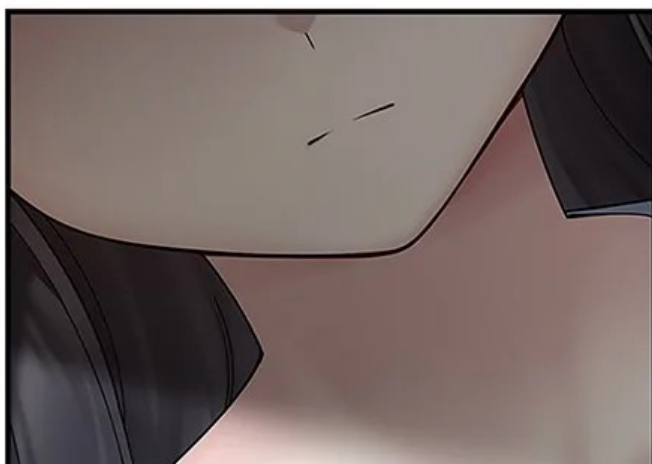
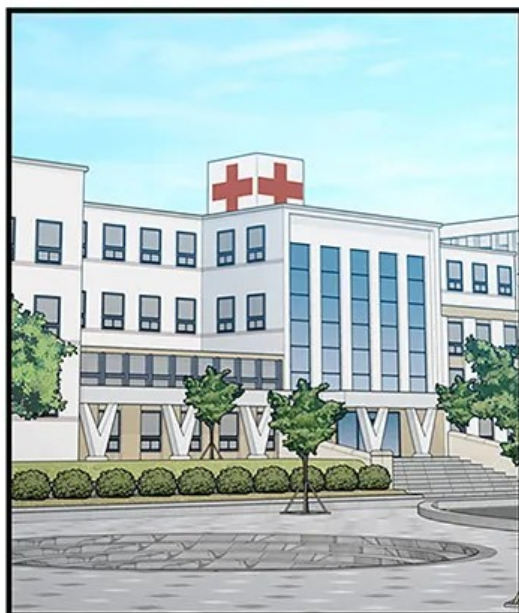


3

イ
イ
レ
カ
る
イ

作画 蘭夢

原作 ぽんだん









でーきたっ！

お兄ちゃん
これ何だ
と思う？

お墓？

ブー！
お兄ちゃん
のバカあ！

これはね
あたしと
お兄ちゃんが
結婚したら
住む家なの！

大きくなったら
お兄ちゃん
のお嫁さん
になるもん！

？

ありがとう

一人で来ると
気が重くて…



あ…

僕って…
こんなに
脆^{もろ}かったんだ

それとも
彼女のせいで

弱くなった
のかな？



でも
どうして
だろう



一人で無理して
耐えてきた僕より



ずっと頼もしくて
強い感じがするのは

めやはりはまだ
意識が戻らず
寝たきりで

かと言って
過去にも
戻れず

今のこの状況は
何一つ変わらない
というのに



彼女が僕の孤独を
癒してくれるから

まるですべて
許されたような
気分になってしまう





勇気を出せる
かもしれない



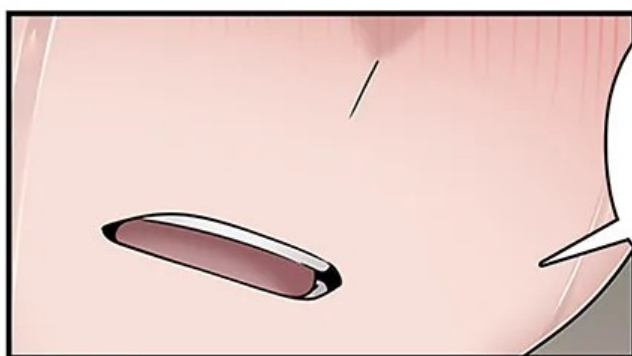
もしかしたら...



もしかしたら
彼女になら



...

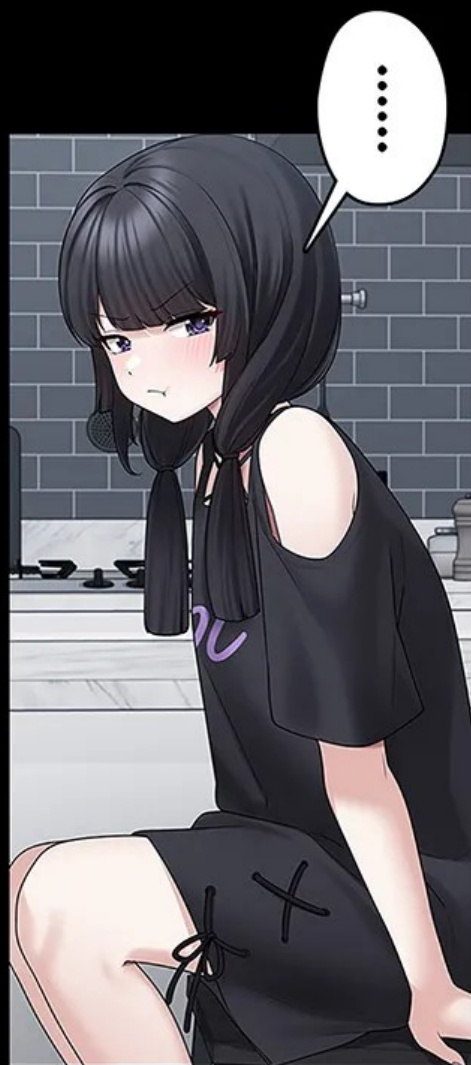


僕のせい
なんです



?







これはね
あたしと
お兄ちゃんが
結婚したら
住む家なの！

大きくなったら
お兄ちゃん
のお嫁さん
になるもん！

子どもの頃から
お兄ちゃんが
大好きだった

同い年の子より
大人びていて

不愛想に
見えても

いつも
あたしのことを
優先してくれた

お兄ちゃんのほうが
かっこいいもん



お兄ちゃん
付き合ってください！



お兄ちゃんのほうが
ずっと優しい
んだから



連絡先
教えてよ



えっへん

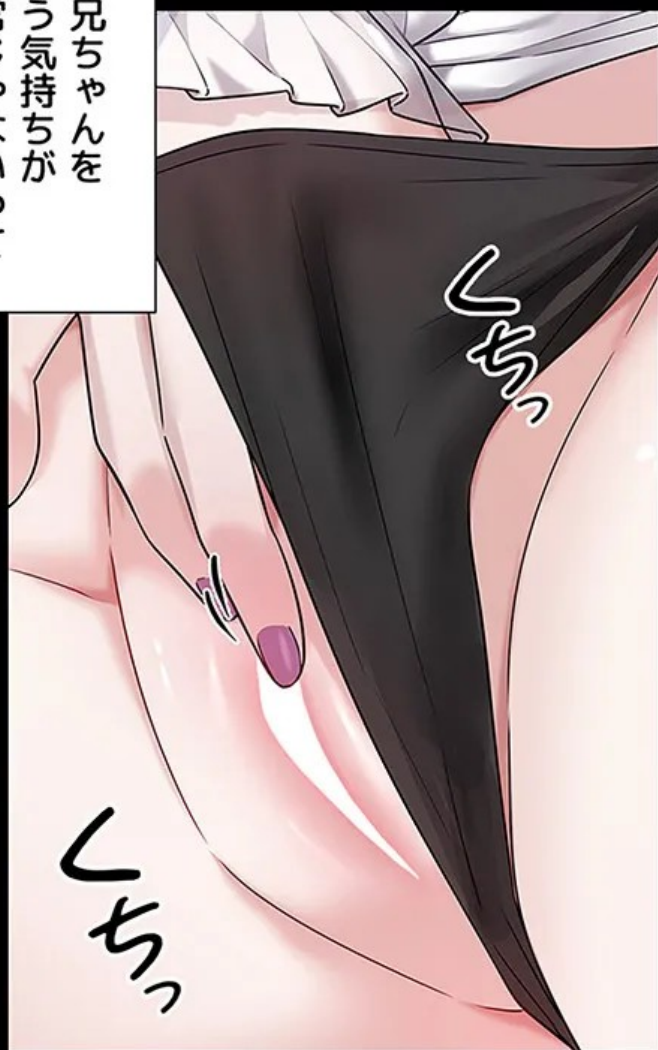
それから
妹のあたしは
世界で一番
可愛い女の子！

世界で一番
素敵な
お兄ちゃん！





お兄ちゃんを
思う気持ち
が尋常じゃ
ないって
自覚もある



きょうだい
の特別な愛



禁断だの
何だの
言うけれど

そういう障害物を
乗り越えるのが
究極の愛じゃ
ないかな

んんっ…ふう…
お兄ちゃん…

プル

ビクッ

くちゅ

くちゅ

んやっ…

ふう

あっ…

お兄ちゃんああん…

はっ
はっ

めあり…？

ビクッ

！

…





お..
お兄ちゃん..



じゃあ
どうしろって
いうんだよ..



だからって
あの状況を見て
スルーする!?

み…
見せて…



変に声掛ければ
お前が恥ずかしく
なるだけだろ！



えっ？



あ…あたしが
してるどころ
見たんだから…!!

お兄ちゃんが
スるのも
見せてよ!!

め…めあり
お前…!!









甘やかされて
育った彼女は

このとき初めて
心の痛みを
味わうことになる

ピリリッ

知らない
番号からだ…

もしもし？







めありは両親の
最期と葬式に

顔さえ
出さなかった





めあり…?



痛みを知らずに
育ったためありは

愛する人の死を
受け入れることが
できなかった



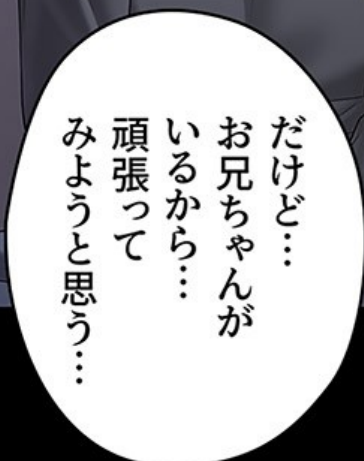
お兄ちゃん…



一緒にご飯でも
食べよう…
何か食べないと…









お兄ちゃん大好き…あのね
お兄ちゃんしかいないの
お兄ちゃんもそうでしょ？
もうこの世で二人っきり
でもお兄ちゃんは少し
寂しいかもしれない
でもあたしは大丈夫
お兄ちゃんがいるから
側にいるよね？
？ そうだよね？

あたしたち

じゃあ…

本当…？

もちろん…

もっと早く
気付くべきだった

へっ…？

エッチしよう

思春期を
とうに過ぎても



いつも僕に
べったりで

自称ブラコンを
理由に執着して
きたけど



僕はそんな
彼女の愛情表現を



もっとめありの
気持ちを理解しようと
するべきだった

お兄ちゃん
最高!!
えへへっ

成長期特有の
一次的な感情だと
軽く考えていた

もっと真剣に
めありの感情に
向き合わなければ
いけなかった

お兄ちゃん…

好き…





へっ？

いやらしいこと
しようってば



セッ○ス
しようよ

セッ○ス



なっ…

何言ってる
んだよ？



はっ…

めあり



好きな漫画で
読んだんだ

セッ○スは
愛し合ってる
人同士が幸せになる
魔法だって

僕らは
家族で

さっき言った
好きってのは
そういう意味
じゃないだろ

今でも鮮明に
覚えている

きょうだいだから
ダメっていうの…?

そんなの…

このとき
めありに何て
言ったらあがれば
よかったんだろう

違う

少なくとも
この言葉じゃ
ないのは確かだ

お前が妹じゃ
なかったとしても

僕はお前を絶対に
異性として見ない

嘘つき...

いつもあたしの
言うこと聞いて
くれたじゃん

どうせまた
ブツブツ言いながら
最後にはあたしの
言う通りにして
くれるんでしょ？
ねっ そうだよね？

だよね？

お兄ちゃんは
あたしにだけは
すごく優しいじゃん

何をしても全部
受け入れて
くれるじゃん

何があっても
あたしのこと
愛してくれるじゃん

違う？

そうでしょ？

何とか
言ってよ

ね？

止まれ

ねっ??

やめろやめろ
言うな言うな

うるさいッ!!

こんだけ
可愛がって
やっただから
いい加減
目覚ませよ!!

これ以上
言うな!!

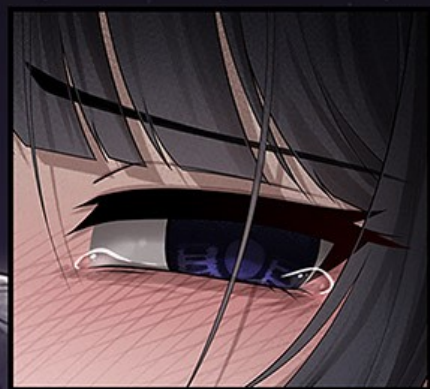
妹つつつても
いつも足手
まといでさ

お前なんて
いないほうが
マシなんだよ!!

いつまで子ども
みたいなこと
言ってるんだよ!!







いめんね…

お兄ちゃん…



次回予告





ステラれる子 3

著者 蘭夢/ぽんだん

発行 Rush!

表紙デザイン CoCo.Design

この物語はフィクションです。
登場する人物・団体・名称等は架空であり、実在のものとは関係ありません。
本作品の全部あるいは一部を無料で複製・転載・配信・送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

© 蘭夢/ぽんだん/TOPTOON